

第68期 中間期 株主通信

2018年1月1日 → 2018年6月30日

最先端のパッケージング ソリューション・プロバイダーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

証券コード: 4248



■ トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。当社グループは、生活上必要不可欠な容器-カタチ(容)あるウツワ(器)-を通じて、お客様の商品である内容物の価値を安全に包み、さらにその価値と個性化を高め、「世界の器文化に貢献」することを使命としています。当2018年第2四半期連結累計期間の業績につきましては、当社のお客様が多く含まれる日本、中国両国の化粧品市場が好調に推移した結果、当社のスタンダードボトル、カスタムボトルとも売上が大きく伸長しました。その結果、期初見込みを上回り、引き続き増収増益となりました。

このような旺盛な需要を受け、また、当社グループではより付加価値のあるスタンダードボトルの品揃えの充実、今後の需要拡大へ備えた生産体制の増強を目的とした設備投資を行っております。生産体制につきましては、昨年より建設に着手したインド工場は、本年4月に竣工し、7月から商業生産をスタートしています。また、岡山事業所におきましては、生産エリアの拡充のための新生産棟の増設工事が

本年8月に竣工しています。その他既存の各生産拠点におきましても、生産工程の自動化を含めた新しい生産機械の導入を進めており、より一層の生産能力増強を図っております。

ところで、当社事業を取り巻く話題といたしまして、本年5月にEUの欧州委員会が使い捨てプラスチック製品の使用を禁止する方針をアナウンスしたことが挙げられます。この規制はストローや小型スプーンなどを対象としたものであり、包装容器は対象外であります。いわゆる循環型経済の確立を目指す方針の中でプラスチック製の包装容器に関しましてもEU域内での包装廃棄物の再資源化率を2030年までに75%とする目標も掲げられ、今後は再資源化のためにより分別しやすい容器や再生利用可能な材質を用いた容器などが求められていくものと考えられ、当社グループといたしましても、EUでの事業拡大を目指し、このような基準に即した容器開発もテーマとして行っていきたいと考えています。

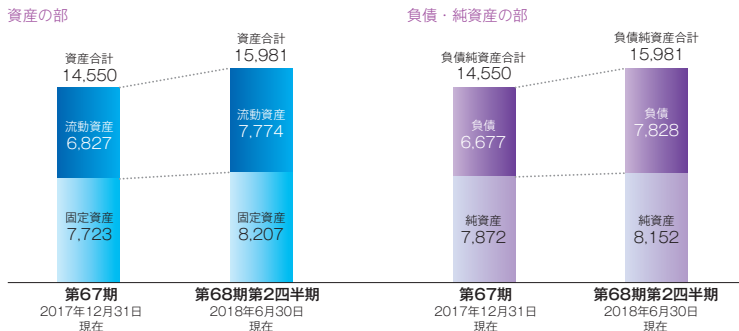
当社グループは、スタンダードボトルのパイオニアとして、お客様が容器に対して求める品質、機能性そして個性に重点を置いて、Standoutな価値を創造し、お客様に唯一無二のパッケージングソリューションを提供してまいります。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

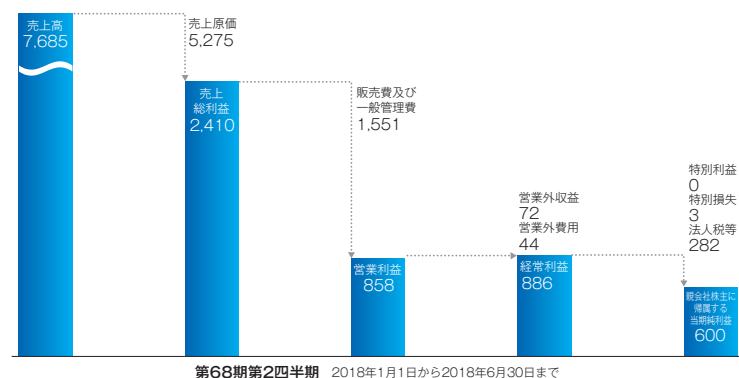
代表取締役社長 竹本 笑子

連結財務諸表

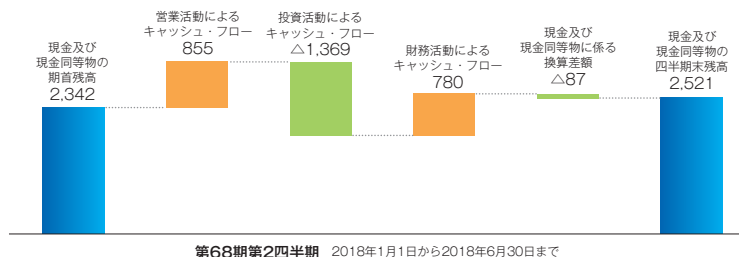
連結貸借対照表 (単位:百万円)



連結損益計算書 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

●純資産

純資産は、前期末と比較して2億79百万円増加の81億52百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金が6億円増加したこと、剰余金の配当が1億12百万円あったこと、為替換算調整勘定が2億14百万円減少したことによるものであります。

●業績

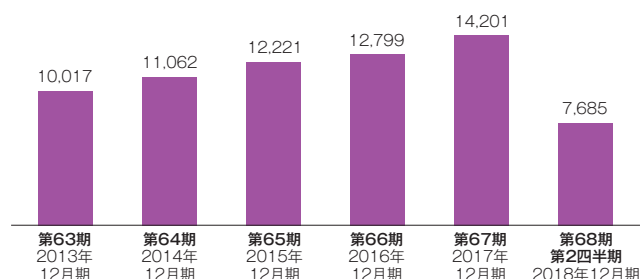
国内市場におきましては、増加する国内需要へ対応し岡山事業所の増設工事を行いました。また、パッケージソリューションの提供拠点としてStandoutラボの工事にも着手いたしました。海外市場におきましては、既存の拠点が所在する中国、米国、タイ、オランダにおきましても国内同様にスタンダードボトルを軸とした営業活動を展開しております。さらに、インドにおきましては、グジャラート州の新工場が2018年4月に竣工するとともに、デリー近郊に営業拠点を設置し営業活動を行っております。これらの取り組みや化粧品市場が非常に好調に推移した結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高76億85百万円(前年同期比10.3%増)、営業利益8億58百万円(同20.4%増)、経常利益8億86百万円(同23.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益6億円(同20.0%増)となりました。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

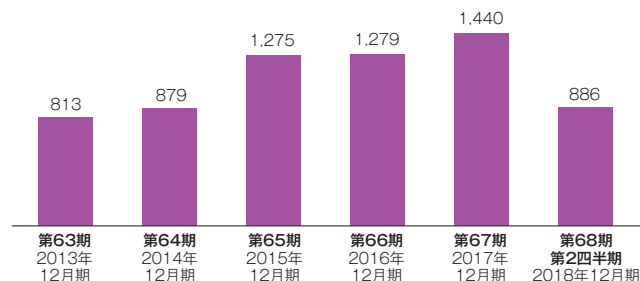
営業活動の結果得られた資金は、8億55百万円(前年同期は12億59百万円の獲得)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益8億83百万円、減価償却費4億99百万円、仕入債務の増加額1億92百万円及び助成金の受取額1億62百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額3億86百万円、法人税等の支払額3億43百万円であります。

連結決算ハイライト

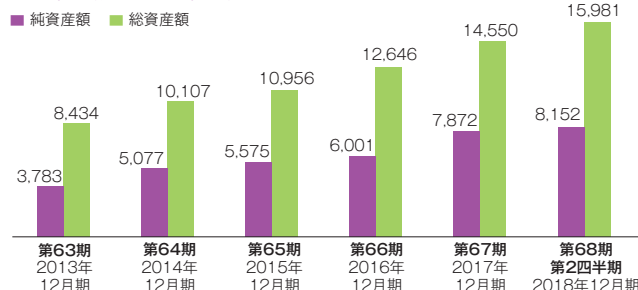
売上高 (単位:百万円)



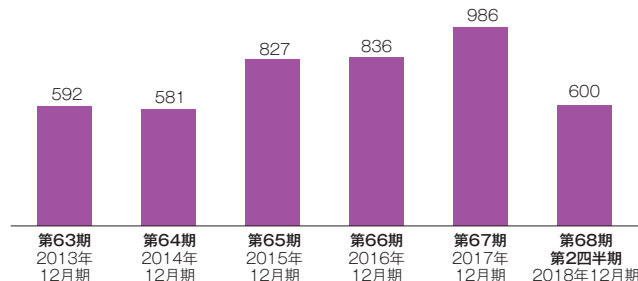
経常利益 (単位:百万円)



純資産額／総資産額 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



トピックス

インド工場稼働

インド工場が2018年4月に竣工、7月より商業生産を開始いたしました。当工場は、2020年代には中国を抜き人口世界一が予想されるインドにおける需要取り込みを目指し、グジャラート州サナンド市に建設しました生産拠点となります。成長が見込めるインド市場への布石とするとともに、増加する欧州需要にも対応してまいります。



岡山事業所の増設

増加する国内需要に対応すべく、岡山事業所の増設工事を行い、2018年8月に竣工いたしました。今回の増設工事では、生産棟の増設のみならず、生産機械等、既存棟の設備入れ替えも行いました。これにより大量生産ニーズに対してもソリューションを提供できる生産能力の増強を図ることができました。



展示会出展

イタリア

2018年3月15日(木)から18日(日)の4日間、イタリアのボローニャにて開催された「Cosmopack」に出展しました。展示会全体の出展社数は2,800社、3日間の来場者数は約25万名でした。本展示会より、展示方法を見直し、スタンダードボトルとカスタマイズボトルとの対比、機能性製品を実際に試してみるデモンストレーションを行うことでStandoutを前面に打ち出しました。当社ブースへの来場社数は305社(うち欧州各国223社)と集客は少なかったものの、対応させていただいた1社当たりの接客時間は長く、EUの環境規制が厳しくなっていく中、例年よりも環境素材やレフィルへの注目度の高さを感じました。



中国

2018年5月22日(金)から24日(日)の3日間、中国の上海(上海新国際博覧センター)にて開催された「上海美容博覧会」に出展しました。展示会全体の出展社数は2,568社、3日間の来場者数は約39万名でした。当社ブースへの来場社数は521社であり、展示会をきっかけに、新規取引に繋がるよう営業活動を継続してまいります。



事業説明会開催のご報告

2018年3月27日(火)午前10時より浅草ビューホテル 飛翔の間において、第67期定時株主総会が開催されました。株主総会終了後、引き続き同一会場にて、今回、初めて株主様との対話を目的に事業説明会を開催いたしました。事業説明会には約60名の株主様にご出席を賜り、当社の事業計画などをご説明し、様々なご質問をいただきました。当日の説明音声及び資料につきましては、当社ホームページ(<http://www.takemotokk.jp/>)よりご確認ください。



代表取締役社長 竹本 笑子

当事業業の特徴 三か年計画について



常務取締役 深澤 隆弘

海外での事業展開について



取締役 竹本 えつこ

欧米(アメリカ・オランダ)におけるパッケージソリューションの提供について



CHIEF OPERATING OFFICER, DIRECTOR Sreehari Nair
TAKEMOTO YOHKI INDIA PRIVATE LIMITED
(インド)について



右記QRコードからも、当日の説明音声及び資料をご確認いただけます。

■新製品情報

JOM-50・80・100

サプリメントやガムなどの商品を、そのまま携帯しやすいように設計したセキュリティ機能付きボトルです。開封する際にバンドを切り取る機構になっています。メール便にも対応した薄型形状です。



FPCW-200

ドレッシングやソース向けの細身ボトルシリーズに波のような模様が特徴の新デザインが追加となりました。



M-500Ⅱ

マウスウォッシュ向けの500mlボトルです。キャップで計量して使用することができます。胴部にくびれがあり、手の小さい方でも持ちやすい形状です。



CEIU-450

お菓子や雑貨、ギフト等に向けた広口ボトルです。クリア感が高く、陳列性も良い形状になっています。



■株主優待制度について

当社では、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝し、下記の通り株主優待制度を設けております。

【株主優待制度の概要】

(1) 株主優待制度の対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象といたします。

(2) 株主優待の内容

保有株式数	優待内容
100株以上	当社が企画開発したオリジナル容器を包装容器に使用した特選品

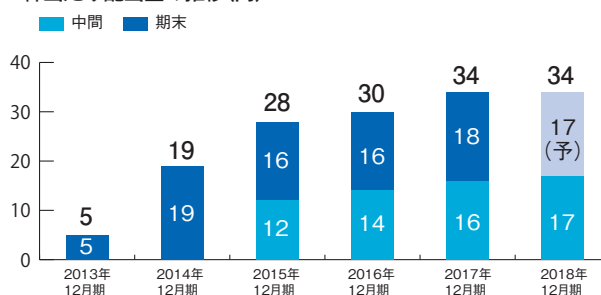
(3) 贈呈の時期

株主名簿確定後にオリジナルボトルの製造を行い、毎年4月に発送予定です。

■配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元におきまして、配当性向水準に留意し、業績に対応した成果の配分を行うことを基本方針としています。2018年12月期の中間配当につきましては、1株当たり17円といたしました。期末配当につきましては、17円を予定しております。

1株当たり配当金の推移(円)



会社概要／株式の状況 (2018年6月30日現在)

会社概要

商号 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.
代表 竹本 笑子
設立 1953年5月19日
所在地 〒111-0035
東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資本金 8億314万4,725円
事業内容 プラスチック製の包装容器の製造及び販売

役員

代表取締役社長 竹本 笑子
常務取締役 深澤 隆弘
取締役 竹本 えつこ
戸田 琢哉
取締役(監査等委員) 穴田 信次
田中 達也
石川 雅郎
二宮 洋

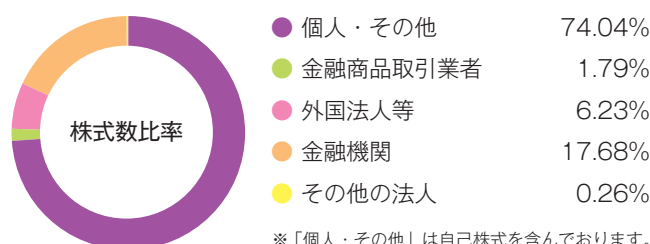
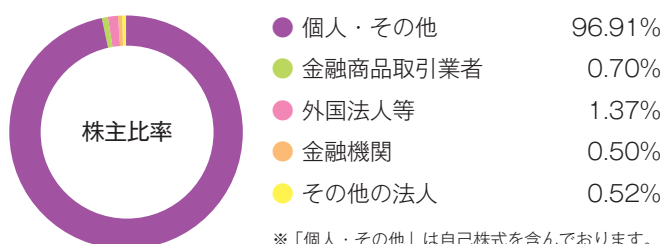
株式情報

発行可能株式総数 20,498,800株
発行済株式の総数 6,264,200株
株主数 3,430名

大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（株）	議決権比率（%）
竹本 笑子	1,685,000	26.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	537,500	8.58
若竹持株会	330,100	5.27
竹本 えつこ	305,300	4.87
深澤 隆弘	265,800	4.24
竹本 力	227,000	3.62
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	211,100	3.37
竹本 雅英	200,000	3.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	137,500	2.20
深澤 英里子	110,000	1.76

株式分布状況



事業拠点

日本で販売する製品は、一部を除き、日本国内の自社工場（6工場）及び協力メーカーで生産されています。一方、海外で販売する製品につきましては、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器（昆山）有限公司で生産されています。



株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
期末配当金受領株主確定日 12月31日
定時株主総会 毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告の方法 当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。
<http://www.takemotokk.co.jp>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。